

国際共同利用・共同研究拠点一覧

令和元年10月23日現在

【認定拠点数】

	分野	合計	備考
国立大学	理学・工学系	5	
	医学・生物学系	1	
	人文・社会学系	0	
	小計	6	・4大学6拠点6研究機関
私立大学	理学・工学系	0	
	医学・生物学系	0	
	人文・社会学系	1	
	小計	1	・1大学1拠点1研究機関
合計		7	・5大学7拠点7研究機関

【認定拠点】

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	認定期間	共同利用・共同研究拠点の概要
東北大学 金属材料研究所	材料科学共同利用・共同研究拠点	高梨 弘毅	材料科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 材料科学分野における金属を中心とした広範な物質・材料を対象とする国際的な中核研究拠点として、材料研究基盤・施設の利用提供を通じ、分野融合による材料科学の新しい学術研究領域の開拓および本分野を牽引する国際的人材の育成を先導し、日本の物質・材料創製の研究力強化の促進を目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 特色ある世界最先端の大型研究施設の共同利用への提供、国内拠点との連携強化及び国際的な人材交流を通じ、新物質の創製、新機能の創出を目指す材料科学共同研究を推進する。これにより、物理・化学・材料科学コミュニティが期待する学術将来計画の実現を図るとともに、先端的な研究成果に基づく日本の素材産業の活性化と持続可能な社会の構築に寄与する。</p>
東京大学 医科学研究所	基礎・応用医学の推進と先端医療の実現を目指した医科学共同研究拠点	村上 善則	先端医療学 がん・ゲノム医学 感染・免疫学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 知的・人的集積拠点の共同利用化のために組織的な展開を図り、がんや感染症等の医学的諸問題の解決を目的に、本拠点において広範な研究領域の国内外の研究者と公募による共同研究を実施・推進し、医学研究水準の更なる向上と本共同研究を通じた若手人材育成および国際研究連携を目指す。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 最高水準の研究施設、附属病院、データベース等を広く開放し、広範に渡る専門分野の研究者が受入教員となって共同研究を推進することにより、拠点のハブ的役割を果たすとともに、感染症・免疫、がん、ゲノム医学等の幅広い基礎生命医学研究分野の推進と附属病院を活用したトランスレーショナルリサーチ(TR)の発展へ寄与する。</p>
東京大学 宇宙線研究所	宇宙線研究拠点	梶田 隆章	宇宙線 素粒子 宇宙物理	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 宇宙線物理学における世界の中核研究機関として、素粒子及び宇宙物理のフロンティアを拡大するとともに、大型の光学望遠鏡やX線衛星では観測できない天体の深部における物理現象を、高エネルギー宇宙線・ニュートリノ・重力波などによって解明する研究を、共同利用・共同研究体制により行うことを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 最高エネルギー宇宙線、重力波、高エネルギーガンマ線、ニュートリノ、銀河宇宙線、暗黒物質、観測的宇宙論、及び関連する理論研究など様々な宇宙線関連の研究を推進する。これらの研究活動において国際的に主導的な役割を担い、国内外の研究者と共に日本と世界の宇宙線物理学の発展に継続的に貢献する。</p>
京都大学 化学研究所	化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際研究拠点	辻井 敬亘	化学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 本拠点は、化学関連分野の研究者コミュニティの意向を踏まえ、国内外の研究者との連携に基づいて同分野の共同利用・共同研究を推進して学際領域を開拓し、国際的ハブ環境も提供することを目的とする。化学研究所の基礎研究の力を活かして学際領域を開拓することは、学術的発展のみならず新規産業創成にもつながり、必要不可欠である。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 本拠点では、拠点が設定する分野に即した課題、拠点外研究者からの提案課題、施設・機器利用型課題、国内外の連携を促進する課題について、共同研究を効率よく展開する。この拠点活動は、化学関連分野の基盤的研究の深化と成果の社会還元、未踏学際分野の開拓、国内外学術ネットワークの充実、国際的視野を持つ若手研究者の育成をもたらす。</p>
京都大学 数理解析研究所	数学・数理学の先端的共同利用・共同研究拠点	山田 道夫	数学 数理学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 純粋数学から応用数学・数理学までを対象に数学全般に関する我が国唯一の研究拠点として、基礎数理・無限解析・応用数理を軸に、数学・数理学の基礎的研究を推進することを目的とする。RIMSプロジェクト研究、RIMS研究集会等を実施し、共同利用・共同研究活動を推進する。国外研究機関とも連携して国際共同研究を推進し、成果を全世界に発信する。また、量子幾何学を中心とした代数・幾何・解析の融合研究を推進し、最先端数学の研究力を強化する新しい幾何学を創造する。大学院教育や若手研究者育成も目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 数理解析研究所を軸として、RIMSプロジェクト研究、RIMS研究集会、RIMS共同研究、滞在型シンポジウムなどの事業を、内外の研究者と連携して行うことによって、研究者コミュニティの要望に応じていく。これらの拠点事業によって数学・数理学の基礎研究が格段に進展し、周辺分野との協力や国際共同研究が促進され、次世代の研究を支えるトップリーダーが輩出すると期待できる。</p>

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	認定期間	共同利用・共同研究拠点の概要
大阪大学 核物理研究センター	サブアトム科学共同研究拠点	中野 貴志	素粒子・原子核 宇宙線 宇宙物理学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 量子ビーム加速器や測定器等の大型設備を整備し、国内外の研究者の共同利用に供すると共にこれらを用いた研究を先導する。原子核やハドロン等のサブアトム物質の解明は元より、宇宙の物質優勢や質量の起源、恒星内での元素合成といった基礎的な研究、更には加速器科学の医学工学への応用など、幅広い分野で最先端研究を牽引することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 世界一のエネルギー分解能と安定性を誇る陽子ビームを供給するリングサイクロトロン加速器や高分解能磁気スペクトロメータ等の大型装置、世界最高エネルギーの偏極光ビームを供するレーザー電子光ビーム施設、国内で唯一の定常ミュオンビームライン等の大型設備を共同利用・共同研究に供し、原子核物理学及び関連分野の最先端研究を推進する。</p>
立命館大学 アート・リサーチセンター	日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点	細井 浩一	文化情報学 地理学 日本文化史	R1.10.23 ～ R7.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 日本文化研究におけるデジタル・ヒューマニティーズ型研究の国際拠点として、拠点が有する日本文化資源の膨大な時空間データベースや、これまでに蓄積してきたデジタル・アーカイブ技術やデータベース管理技術を、国内外の研究プロジェクト活動の基盤として提供し、情報アーカイブ・知識循環型共同研究を先導することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 デジタル・ヒューマニティーズ型の研究プロジェクトを広く国内外より公募し、拠点が有する日本文化資源の膨大なデータベースや、その構築のノウハウを共同利用に供することにより、日本芸術・文化のデジタル研究環境を加速的に高度化する。これにより、従来にない広がりを持つ研究コミュニティを創成し、日本芸術・文化研究の発展に寄与する。</p>